令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	嬉野市立塩田小学校

1　前年度 評価結果の概要	**○校内研究では、NIE実践に対する肯定的な回答をした児童は８５．５％であった。。物事を分析し、自分なりの考えを引き出す力・条件に合わせて書く力を継続的に養う必要がある。** **○新しい特別支援教育コーディネーターを中心とした体制づくりが整った。外部機関との連携を進めながら、一人ひとりの児童・保護者に合った指導・支援の工夫を進めていく必要がある。** **○元来充実していた地域連携による体験活動は、コロナ禍の中、できる方法を模索して行うことができている。対話的で深い学びを実現するためには、活動のねらいを明確化し、職員全体で共通の認識を持つ必要がある。**
2　学校教育目標	**元気に　がんばる　塩田っ子の育成**
3　本年度の重点目標	**○対話活動とふりかえりを取り入れた思考力の育成と主体的学習習慣の確立** **○特別支援教育の推進**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師８０％以上にする。	・GIGAスクールについて、職員全体で研修を行い共通理解し、実践を行う。 ・タブレット端末を利活用した授業実践に、学期毎１回以上取り組む。	A	・現時点では、ほぼ全職員が学力向上評価シートのマイプランの成果指標が達成できた。 ・夏季休業中にタブレット研修を２回実施した。また、高学年はタブレットを様々な場面で学習に活用している。	A	・学校評価アンケートの結果からマイプランを意識した指導を行っていると回答した割合が94%であり、達成できたといえる。 ・タブレット研修を随時行い、学習に活用できるようにすることができたことで、8割以上の児童や保護者が学習効果が上がっていると答えている。	A	・学校評価アンケート保護者の2「子供の宿題等に目を通している」と3「お子さんは授業がよく分かっている」について、特に3の基準が分かりづらかった。 ・これからの学力にタブレットは欠かせないものになるだろう。 ・タブレット研修で学習に活用でき、8割以上に効果が上がっている。様々な場面で活用できている。 ・マイプランを意識した指導9割で達成できている。
	○対話活動を取り入れた校内研究実践の充実	○学校評価アンケートにおいて、話し合い活動等の実践に対する肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・全職員が対話活動とふりかえりを取り入れた授業研究会を年に1回以上行う。	B	・現段階では児童の、話し合い活動に対する肯定的な回答は目標を達成できなかったので、スピーチタイムなどの内容の充実を行っていく。。 ・授業実践は計画的な実践が推進されている。	B	・学校評価アンケートの結果から、自分の思いや考えを伝えることに肯定的な回答をした児童の割合は76%であった。スピーチタイムを行ったが、まだ自信をもって話をすることに抵抗があるため、指導の工夫を続けていく必要がある。 ・全職員による授業実践を行うことができた。	B	・対話は学校だけでなく、常日頃の家庭での対話も重要である。 ・大人でも自分の思いや考えを伝えることは難しい。しかし、続けることで、身に付くと思う。 ・自分の気持ちを言葉で表す練習として短い日記（つぶやき）を書いてみるのはどうだろう。 ・児童が自信をもって話をすることに抵抗がある指導の工夫を続ける必要がある。 ・全職員による授業実践ができたことはよかった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が90%以上をめざす。	・9月の授業参観で、全学級「ふれあい道徳」を実施する。その前後に、担任の願いや保護者の感想を、お便りにして保護者や地域に知らせる。	B	・コロナ禍で「ふれあい道徳」は延期になっているが、週1時間の道徳で豊かな心を身につける教育活動を実施している。	A	・保護者のアンケート結果96%が道徳教育に積極的に取り組んでいると答えた。ふれあい道徳の実践も保護者に好評だった。	A	・ふれあい道徳はこのような社会状況にもある為一番必要な活動ではないだろうか。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの認知、防止のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員が100%になることをめざす。	・毎月こころのアンケートを実施し、丁寧な聞き取りを行う。 ・教育相談週間を、年1回以上実施する。	B	・こころのアンケートを毎月実施し、児童の相談があれば、担任や他の職員が話を聞いて実態把握や児童理解に努めている。いじめととらえられる案件は増えていない。 ・月1回、児童理解のための情報交換会を行うことで、いじめの早期発見につなげている。	A	・アンケートでは、「子供たちが学校が楽しいと思えるように努力している」と肯定的な回答をした職員が100%であった。心のアンケートの実践も教育相談の取り組みもよかった。	A	・学校教育目標の根幹だと思う。100%は心強い限り。 ・児童のアンケートで話せる人がいない人が17%もいるようなので、その児童が話せるようフォローしてやってもらいたい。話をしてガス抜きをすることが大切だと思う。 ・学校が楽しいと思えるように努力している。 ・いじめの早期発見するためにも、心のアンケートの実践、教育相談の取り組みはよかった。
	○あいさつ・返事の励行	・アンケートで「あいさつ・返事ができている」と答える児童・保護者が共に85%以上になることをめざす。	・あいさつや返事の仕方を具体的に指導するとともに、あいさつの意味について児童に理解させる。 ・保護者に対し、PTA総会や学級懇談会、学級通信、まちCOMIメール等をとおして協働してあいさつ指導を行うような働きかけをする。	B	・学校や地域で気持ちのよいあいさつができるように、継続して声をかけた。 ・運営委員会からの提案があり、全ての学年があいさつ運動に取り組んだ。	A	・「あいさつ・返事ができた」児童・保護者が共に85%を超えていた。全学年があいさつ運動に取り組んだ。また、「あいさつ通り」の職員の声かけが有効だった。	A	・学校外の挨拶があと一歩ほしい。 ・挨拶は本当によくできている。これからも続けてほしい。 ・子供が挨拶をしてくれると元気になる。自分がしてもらった時の気持ちを考えてみると、挨拶の意味が深くつたわるのではないかと思う。 ・全学年挨拶運動に取り組んで、「あいさつ通り」の職員の声掛けが有効だったのがよかったと思う。
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答える児童・保護者をともに85%以上にする。	・年2回以上、生活がんばりリカードで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」をチェックする。 ・養護教諭や専門家と連携し、SNSやゲーム依存症に関する保健指導を各教室で行う。	B	・8月末から9月初めの生活がんばりカードで、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼びかけ、各学年をチェックすることができた。 ・養護教諭や専門家と連携し、歯磨き指導や心の問題の指導を行った。今後SNSやゲーム依存症に関する保健指導も行う予定である。	A	・「早寝・早起き、朝ごはん」に関するアンケートでは、89%が「できた」と答えている。特に朝ごはんに関しては、どの学年も90%以上が毎日きちんと食べていることが分かった。日々の指導や生活がんばりカードの取組の成果が表れている。 ・「早寝」に関して、学年によって目標達成率にばらつきが見られた。継続的な指導と家庭との連携が必要である。 ・基本的な生活習慣がまだ身に付いていない児童も見	A	・重要な生活習慣を全職員で日々の指導や「生活がんばりカード」の取組等で成果が表れてよかった。 ・SNSは成長過程において一番重要な部分を占めている。賢く使用してほしい。
	◎志を高める体験活動の充実	○アンケートで、地域の良さを見つけることができたと答える児童と、学校は体験活動の充実に努めていると答えた保護者を共に85%以上にする。	・各学年で、外部や地域ボランティアと連携した学習活動を年2回以上行う。	B	・前期に、すべての学年が1回はコミュニティーの方と一緒に活動できている。後期も、各学年活動が予定されている。	A	・体験活動で学んだことを発信したり、地域コミュニティ(を中心とした外部講師)と連携した活動に計画的に取り組んだりした。コロナ禍ではあるが、今後も引き続き地域コミュニティとの連携を密にし、内容も充実させていきたい。 ・学校評価アンケートで、学校は体験活動の充実に努めていると肯定的に回答した保護者は90%であった。また、学校での行事は楽しいと肯定的に回答した児童は93%であった。	A	・コロナの状況が許せば、以前のにぎわいを取り戻してほしい。 ・地域のふれあいは大切。今後も積極的な活動をしていきたい。 ・地域の人達とのふれあい活動は大人になってからの「ふるさと」の良い思い出として心の中に少しずつ蓄えられていく。 ・学校だより「塩田っ子」どれを見ても、コミュニティとのかかわりが掲載されて学校と地域の連携が取れて活動されているのがわかる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（月当たり45時間以内）を遵守する。	・プロジェクトが機能するように互いに声をかけ、仕事を効率よく分担し協働する。 ・定時退勤推進日（毎週水曜日）には、全職員17時15分までに退勤する。	B	・8月の職員会議で出されたことを各プロジェクト等で検討し、今後に生かす。 ・職員の意識が高まるように、定時退勤推進日は、行事黒板等への掲示や職員への呼びかけを行う。	B	・各プロジェクトで行事の精選等を考え、2学期の行事に反映できた。61%の職員が働き方改革の意識をもつことはできたが、時間外勤務の減少までには繋がっていない。 ・留守番機能を使い、17時45分には、外部電話を受け付けないようにしたことで、事務作業に集中できた。	B	・17:45の留守番電話は大変素晴らしい取り組み。 ・留守番電話機能を使い、17:45以降は事務作業に集中できたのはよかった。 ・四季により仕事量はどの職場でも考えられる。時間外労働は体力面ばかりではなく家庭環境も危惧されるので、更なる検証を。
	○放課後の作業時間を確保する	○校時表の見直し等を行い、年に2回程度試行してみる。	・勤務時間内の放課後の作業時間を一人平均20分以上多く確保する。	B	・今後、成績処理週間に合わせ、特別校時を試行してみる。	A	・2月の2週間、来年度に移行するための特別校時を組み、時間の確保を行った。また、放課後の会議があるときには、特別校時を組んだ。職員の67%は時間の確保ができたと考えている。会議時間に余裕がもてた。	A	・確保ができていない（理由）原因を共有してアドバイスができるといい。 ・試行してよい結果につながったのでは。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の支援体制の充実	○特別な支援を要する児童や配慮を要する児童の理解や対応について、職員間でずれがないように共通理解を行う。	○アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と答える職員が90%以上になることをめざす。	・支援を要する児童の情報交換を、年5回以上行い、記録を蓄積する。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く。	A	・特別な支援を要する児童の担任が職員と共通理解を図り、学習環境を整えることができた。また、SC、教育相談員、巡回相談員や医療機関との連携も図ることができている。 ・夏季休業中に、通常学級で困り感を持つ児童の指導支援のあり方についての職員研修を実施した。	A	・「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と肯定的に答えた職員が100%であった。夏休みの職員研修で台湾の配慮について学んだことを、日常の児童への指導・支援に生かすことができたものと考える。	A	・多岐にわたる特別支援学級での対応等大変だと思う。 ・困り感をもつ児童に対してきめ細やかな指導・支援を全職員ができていることは、日常の児童への指導ができよかった。

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・1人1台端末の今後の有効活用に向けて職員の技能の向上や授業づくりについての研修や体制づくりを行う必要がある。 ・コロナ禍の中であっても、学びを止めないために、体験活動や学習指導ついて方法を模索していく。 ・業務改善・働き方改革について職員全体で共通の認識を持ち工夫を進めていく必要がある。